

革新的な未病イノベーションの産学公民連携！

対話型 AI アバターを活用した高齢者見守り技術の実証

神奈川県は、慶應義塾大学が代表機関を担う科学技術振興機構(JST)の大型プロジェクトの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT：PL 中村 雅也）に参画しており、その一環として、神奈川県と慶應義塾大学及び企業が連携して、「対話型 AI アバターを活用した高齢者見守り技術の実証」を推進しました！

<実証における役割>

サービス提供事業者：セイコーソリューションズ(株)、HT ソリューション(株)
実証フィールド：健康型有料老人ホーム「マゼラン湘南佐島」((株)SOYOKAZE)
専門的助言：慶應義塾大学医学部（中村雅也教授、岸本泰士郎教授 等）
産学公民連携コーディネート：神奈川県

<実証の概要>

高齢者の見守り等の課題解決に向けて、対話型 AI アバターを「健康型有料老人ホーム：マゼラン湘南佐島」の入居者・スタッフなどに体験いただき、会話データの収集・分析や、現場での対話型 AI アバターの受容性・継続性・会話品質などについて、次の通り検証しました。

(1) 実証期間

令和8年4月14日（火曜日）～4月24日（金曜日）※4月19日除く

(2) 対象者

マゼラン湘南佐島の入居者 10 名およびスタッフ 1 名 計 11 名

(3) 実施方法

タブレットを用いた対話型 AI アバターとの日常的な自然会話を通じて、会話データを収集・分析

毎日自由に会話を実施

- ・利用者情報を学習（プロフィール登録、記憶機能）
- ・毎日の状態を会話で聞き取り（ルーティン会話）
- ・趣味や家族の話題にも自由に応答
- ・脳トレなどのコンテンツも提供

会話データをもとに記憶・分析を実施

- ・会話履歴をもとに継続性のある自然な対話を実施
- ・会話の特徴や感情の変化を分析

受容性確認のためアンケートを取得

- ・実施前（事前アンケート）、実施期間中（毎日アンケート）、

対話型AIアバター（対話イメージ）



※画面・アバターはイメージです

実施後（事後アンケート）をそれぞれ取得

- ・ AI との会話に対する受容性・継続性・満足度などを確認

（４）実証結果（別添１参照）

参加者から自然な対話は概ね受け入れられ、継続利用の意向も高いことが確認できた。一方で、「会話のテンポ」「AI が話しすぎる」等の改善ニーズも明確になった。

○結果概要

- ・ 取得セッション（会話）数：86 件
- ・ 総会話時間：約 14 時間 41 分（平均約 11 分/回）
- ・ 参加者の発話割合：平均 43%（AI 発話割合約 57%）

＜今後の展開＞

県では、本件のような科学技術力を活用した未病の見える化や改善の取組みについて、慶應 COI-NEXT 等との強固な連携を進め、未病の重点分野である、生活習慣病や認知症等について、アカデミアの科学的知見や民間企業の産業力などを活用しながら、医療や介護と連携した未病の取組を推進します。

＜参考＞

○慶應義塾大学：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコミュニティ共創拠点（共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT））

「誰もがつながり、安心して暮らせる健康な社会」の実現を目指すプログラム。

医療・介護・ヘルスケアの情報をつなげることで、必要なサービスにスムーズにアクセスできる仕組みをつくり、病気の悪化や介護離職を防ぐ。また、孤立しがちな高齢者や若い介護者の支援、健康不安による貧困の連鎖の解消にも取り組む。

○対話型アバターとは

画面に表示されるキャラクター（アバター）が、音声で人と自然な会話を行う AI システム。一方向の音声案内や定型のチャットボットとは異なり、利用者の発話に応じて柔軟に応答内容を変えながら対話を続けられることが特徴。利用者一人ひとりの興味・関心・生活習慣に合わせた個別の会話を継続的に行うことができる。本実証では、高齢者の方にとって、楽しく自然に対話を続けられる相手となり得るか、その受容性を検証した。

○健康型有料老人ホーム「マゼラン湘南佐島」（別添２参照）

運営：株式会社 SOYOKAZE

所在地：横須賀市佐島 1-14-1

入居条件・居室数：60 歳以上、自立・50 室

厚生労働省が分類する健康型有料老人ホームとして、健康寿命延伸に特化したプログラムを運用している。マゼラン湘南佐島の特色として、日常生活からある日突然介護の生活に入るのではなく、未病の概念を取り入れ、入居者の経時的な変化を把握し、健康な状態を維持・向上させる事を目的としており、「自宅で過ごす日常」を支え、健康寿命の延伸と、その先にある生きがいの支援を実施している。

